

平成30年小山町高校生議会会議録

平成30年10月20日

召集の場所 小山町役場議場

開 会 午後2時00分 宣告

出席議員	1番 柴田 日向君	2番 伊倉 はな君
	3番 村尾 桜咲君	4番 山田 虹歩君
	5番 市岡 優衣君	6番 村松 希海君
	7番 渡邊 正人君	8番 勝亦 紫音君
	9番 佐藤 美月君	10番 村上 真鈴君
	11番 岩元龍之介君	14番 廣戸 蓮大君
	15番 加瀬 心結君	16番 増田 航陽君
	17番 常盤 天那君	18番 勝又 涼菜君
欠席議員	12番 杉山 実夢君	13番 柴田 葵君

説明のために出席した者

町 長	込山 正秀君	副 町 長	室伏 博行君
副 町 長	杉本 昌一君	教 育 長	天野 文子君
企画総務部長	湯山 博一君	住民福祉部長	小野 一彦君
経済建設部長	野木 雄次君	未来創造部長	遠藤 正樹君
オリンピック・パラリンピック推進課長	池谷 精市君	教育次長兼こども育成課長	長田 忠典君
危機管理監兼防災課長	岩田 和夫君	総 務 課 長	大庭 和広君
総務課副参事	米山 仁君		

職務のために出席した者

議会事務局長	岩田 芳和君	議会事務局書記	小野 利幸君
--------	--------	---------	--------

閉 会 午後3時27分

(議 事 日 程)

開会の宣告

日程第1 議席の指定

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

1番 柴田日向君

2番 伊倉はな君

3番 村尾桜咲君

小山町の情報発信について

4番 山田虹歩君

5番 市岡優衣君

6番 村松希海君

図書館の利便性について

7番 渡邊正人君

8番 勝亦紫音君

9番 佐藤美月君

10番 村上真鈴君

経済面での金太郎の活用について

11番 岩元龍之介君

高齢者と若者の積極的な交流について

14番 廣戸蓮大君

15番 加瀬心結君

16番 増田航陽君

17番 常盤天那君

小山町の防災行事について

閉会の宣告

議

事

午後 2 時00分 開会

○議長（勝又涼菜君） 本日はよろしく申し上げます。

ここで御報告します。杉山実夢君、柴田葵君は、本日の会議を欠席する旨、届け出が提出されておりますので御報告します。

ここで、小山町議会傍聴規則第 8 条の規定により、本日は傍聴席でのビデオ、カメラの撮影を議長において許可しておりますので報告します。また、報道関係者等による議場での記録用写真の撮影を議長において許可しておりますので、あわせて報告します。

ただいま出席議員数は16人です。出席議員が定足数に達しておりますので、小山町高校生議会は成立しました。

ただいまから平成30年小山町高校生議会を開会します。

直ちに、本日の会議を開きます。

本日の議事日程はあらかじめ配付しましたとおりですから、朗読を省略します。

---

日程第 1 議席の指定

○議長（勝又涼菜君） 日程第 1 議席の指定を行います。

議席は、小山町議会会議規則第 4 条第 1 項の規定を準用し、議長が指定します。

議席は、ただいま着席の議席とします。

---

日程第 2 会期の決定

○議長（勝又涼菜君） 日程第 2 会期の決定を議題とします。

お諮りします。本議会の会期は、本日 1 日としたいと思います。これに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（勝又涼菜君） 異議なしと認めます。したがって、会期は、10月20日、1日と決定しました。

---

日程第 3 一般質問

○議長（勝又涼菜君） 日程第 3 これより一般質問を行います。

なお、今回の質問は、グループで質問を考えたものです。

質問者は登壇し、質問願います。

通告順により、順次発言を許します。

はじめに、1 番 柴田日向君。

○1 番（柴田日向君） 3 人を代表して、小山町の情報発信について質問します。

現在、小山町では様々な企画を行っていますが、どれも参加者が少なく活発ではありません。

昨年この場で、総合体育館で行われている親子運動遊び教室の参加者がいなかった原因について質問させていただき、「ニーズがなく、参加者がいなかった。年に一度の町民アンケートでニーズを調査し、種目等を練っていく」という御回答をいただきました。そのため、何かしらの改善を行ったと思うのですが、それにもかかわらず参加者がふえないということは、ニーズに合っていないだけでなく、情報発信が足りていないのではないのでしょうか。

私達は、小山町内の小学2年生の保護者、小学6年生、中学2年生、合わせて403人を対象にアンケートを行いました。

その結果、「教室が開かれていることを知っているか」という質問に対して、「イエス」と回答したのは保護者が85%、小学6年生、中学2年生は65%となりました。しかし、「参加したことがある」と回答した人は30%前後と少ないことが分かりました。このことから、ニーズに合った種目を行い切れていないと考えます。ほかにもアンケート結果から、種目だけでなく、情報発信の方法のニーズも分かりました。その中で改善すべきだと感じた項目について提案させていただきます。

アンケートで小山町の知りたい情報について質問したところ、たくさんの意見が挙げられました。多かったものとしては、イベント情報、災害情報、他校のこと、事業、子育てに関する情報、求人転職情報、おすすめスポットがありました。その中で広報おやまに既に掲載されている情報もあり、そこから発信しているけど伝わっていないことが分かります。

広報おやまを見てみると、知りたい情報は文字の多いページに掲載されていました。しかし、アンケートから文字の多いページは読まず、写真の多いページを読むという結果が出ています。そのため、文字を減らし写真をふやしてみたいかがでしょうか。また、おすすめスポットについては、別紙があったと思うのですが、アンケートでどの年齢層も約4割の人が広報おやまから情報入手していることが分かったため、広報おやまに掲載すべきだと考えます。

これらの今行っている情報発信の改善はもちろんですが、私達は新しい情報発信を行うべきだと考えました。アンケートで、広報おやまなどの「目で見える情報発信」のニーズがあるということが分かりました。

そこで一つ目に、LINEを活用しての情報発信を提案します。今、おやまで暮らそう課では、既にLINEの活用を行っているようですが、友達追加人数は100人程度となっているため、活用し切れていないと感じます。そこで、友達追加でスタンプゲットを利用してみたいかがでしょうか。スタンプは簡単に作成できます。また、小山町のマスコットキャラクターである金太郎をスタンプにすればPRにもなると思います。もし絵を描く人がいない場合は、小山高校の美術部が協力します。

二つ目に、小山町の金太郎と小山高校の小太郎くんのコラボを提案します。せっかく小山町議会に小山高校が参加させていただいているので、何か小山町と小山高校でできることはないかと考え思いつきました。

また、アンケートで「小山町のマスコットキャラクターを知っていますか」と質問したところ、どの年齢層も「イエス」と回答した人はわずか4割という結果になりました。更に、「知っている」と回答した人に印象について聞いてみると、「力強い」「おもしろい」「親しまれている」というプラスの印象もある反面、「中の人が見えるのはどうにかしてほしい」「かわいくない」「地味」などのマイナスの印象も多くありました。また、小山高校の小太郎さんと間違えてしまっている人が12%もいました。間違えている人の多くは、「かわいい」などのよい印象を小太郎くんに対して持っています。

そこで、以前富士スピードウェイで行われたマラソンフェスタでコラボしたときに好評だったため、コラボしてみたいかがでしょうか。コラボできるイベント例としては、好評だったマラソンフェスタ、町民文化祭、金太郎まつり、小山高校の行事である笙陵祭、クロスカントリーなどが挙げられます。どのイベントもたくさんの方が集まるのでよいPRになると思います。私達生徒会が協力します。

小さな改善だけでなく、提案した二つの新たな情報発信を行えば、よいところやアピールポイントを発信することができ、小山町の活性化につながると私達は思います。これらのことについて町はどうお考えでしょうか。

以上です。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○町長（込山正秀君） 私、町長になりまして8年目ですが、この議場にこんなに傍聴者が来たのははじめてでございまして、大変緊張しておりますので、議員の皆さん、よろしく願いいたします。

柴田議員、伊倉議員、村尾議員にお答えをいたします。

議員御存じのとおり、本町の情報発信といたしましては、広報紙、ホームページ、フェイスブックなどを活用し、町民や町外の方々へ情報を伝えております。広報紙「広報おやま」につきましては、常に多くの町民の皆様を掲載できるように取材し、読みやすく親しみやすい紙面編集を心がけております。本年1月からは、紙面に載せ切れない情報を動画により紹介する「おやまAR」を開始いたしました。

また、静岡県広報コンクールでは、連続して写真部門で奨励賞を受賞し、小山高校生によるインターンシップのページでは、「次世代のパワーと町の元気、明るさ、はつらつさを効果的に伝えている」と評価されております。

広報紙のほかにも、ホームページやフェイスブックを通じて町からの情報を発信している中、町の公式ホームページにつきましては、情報をSNSで簡単にシェアできるボタンを追加するなどの対応をしたところであり、町の情報を広げていただければと思っております。また昨年度に、スマートフォンでも快適に見られるように対応いたしました。

今後は広報紙等からの情報発信はもとより、情報発信のツールとして、小山町テレビ共聴組合

と連携し、町の取り組みやイベント情報などをお知らせし、更に毎月開催している定例記者懇談会においても、報道関係者へ積極的に情報提供し情報発信してまいります。

その他の詳細につきましては、企画総務部長から答弁をいたします。

以上であります。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（湯山博一君） 私からは、LINEを活用した情報発信と町の金太郎と小山高校の小太郎くんの二つのキャラクターのコラボレーションにつきまして御説明をいたします。

はじめに、LINEを活用した情報発信についてであります。

議員御指摘のとおり、現在、おやまで暮らそう課からLINEによりイベント情報等を伝えておりますが、友達の追加人数は伸び悩んでいる状況であります。しかし、このLINE等のSNSを活用した広報は大きな情報発信源であると考えておりますので、今後も工夫をしながら続けていきたいと思っております。

議員御提案のLINEスタンプの作成ですが、町のキャラクターの金太郎をスタンプにしてPRすることは非常に効果的な方法であると考えておりますので、今後前向きに検討してまいりたいと思います。

なお、金太郎のデザイン提案につきましては、町内のイラストレーターや小山高校美術部の皆さんにも御協力をお願いしていきたいと考えています。

次に、町の金太郎と小山高校の小太郎くんのコラボレーションについてであります。

小山町のキャラクターである金太郎は、イベント等には必ず登場し、子どもから大人まで多くの方に親しまれております。更に、最近では広報紙へも多く登場するようにし、町民の方々にこれまで以上に知っていただけるようにしております。

今後、町や小山高校等のイベントにおいて、金太郎と小太郎くんがコラボすることができれば、二つのキャラクターの存在が更に広く伝わっていくのではないかと考えております。小山高校の生徒会とも連携を図り、この二つのキャラクターを上手にPRできるように努めてまいります。

以上であります。

○議長（勝又涼菜君） 再質問はありませんか。

○2番（伊倉はな君） 再質問をいたします。

SNSの情報発信は、フォロワーの4割以上のシェアや「いいね」がなければ、情報発信としては成り立たないと言われております。

現在、おやまで暮らそう課のLINEの友達登録人数は123名でした。そのうち投稿されているものに対してのスタンプについては4件、シェアについては0件でした。1割にも満たないということになります。これはツイッターやフェイスブックにも同じことが言えると思います。

新しい友達をふやすだけでなく、今現在のフォロワーに対する情報発信の改善が必要だと感じるのですが、このことについて町はどうお考えでしょうか。

再質問は以上です。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（湯山博一君） 伊倉議員の再質問にお答えをいたします。

おやまで暮らそう課の情報発信の現状、非常に厳しい状況であるということを改めて指摘をいただきました。ありがとうございます。

おやまで暮らそう課に限らず、小山町ではフェイスブックでもいろいろな情報を発信しておりますので、まずはその内容を若い方を中心に見てもらえるように、今後内容をよりよくするように努力していきたいと思えます。

更に、先ほど御提案のLINEスタンプを活用した情報発信の件につきましては、LINEスタンプの作成は手数料がかかるようですので、その措置だけすれば、すぐにでもつくって、小山高校の美術部の皆さんと協力して、よりよいものに磨き上げていければいいなと思っております。

以上であります。

○議長（勝又涼菜君） 再々質問はありませんか。

○1番（柴田日向君） 再々質問をします。

ツイッター、フェイスブック、ホームページ、広報おやまなどで情報発信を行っていると思うのですが、今はフェイスブックは余り使われていません。正直Instagramの方が使われています。Instagramを活用すれば、ホームページにInstagramに上げた写真を載せることができます。

調べてみると、ホームページからInstagramに飛ぶURLを活用して移動することや、ツイッターからホームページに移動するURLを貼られていたのですが、ホームページに貼られていたフェイスブックのURLは古いURLでした。

こういった小さなことから始めていかないと新しいことはできないと思うので、まずはそういった小さなことから始めていき、Instagramについてもハッシュタグの活用をすればよい写真が上がり、その写真を見た人達が小山町に興味を示すと思うので、やってみてはいかがでしょうか。

以上です。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（湯山博一君） 柴田議員の再々質問にお答えをいたします。

議員御指摘のとおり、SNSは、例えば私達の年齢の者が使い出すと大体若者が離れていくと言われております。ですので、フェイスブックもだんだん若者から離れていっていますし、今、LINEも随分若い人は使っていないということで、議員御指摘のように、Instagramが今一番、若い皆さんの中では使われているのかなと思えます。

今年の4月にシティプロモーション推進課をスタートしました。実は昨日、今日の議会のこともありまして、Instagramの活用について話題が出ました。早速担当課長と担当専門官と私

の3人で話をしまして、すぐにでもインスタグラムの準備をして始めたいと思います。まずはできることから一歩ずつやっていきますので、ぜひ御理解をいただければありがたいと思います。

よろしく申し上げます。

○議長（勝又涼菜君） 再々再質問はありますか。

○1番（柴田日向君） 以上で、私達の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（勝又涼菜君） 次に、4番 山田虹歩君。

○4番（山田虹歩君） 3人を代表して、小山町の図書館の利便性について質問します。

小山町にある図書館は、北郷地区にある文化会館横の一つのみで、小山町民が気軽に利用するには不便です。また、小山町には近場に本屋がないため、町民が本に関わる機会は少なくなります。しかし読書は知識量や語彙力、コミュニケーション能力の向上に効果的であり、必要不可欠なものと言えます。そこで私達は、今ある小山町立図書館を活用していくべきだと考え、図書館の利便性を高めることを重点に、二つの案について質問します。

まず、移動図書館車を導入する案です。移動図書館車とは、図書館の蔵書を車の中に並べ、図書館と同じように本の貸し出しや返却ができる車です。御殿場市では、ライオンズ号という移動図書館があり、保育園や幼稚園を含む市内40カ所のステーションに、2週間に1度来る仕組みになっています。そのことから、移動図書館車は図書館の利便性を高めるものとして有効な案ではないでしょうか。また、小山町では、小山町子ども読書活動推進計画を進めているため、移動図書館車のシステムを利用すれば、子どもの読書量の増加により影響があると考えられます。

次に、図書館前を通るコミュニティバスの時間に合わせて、図書館内のイベントを実施する案です。図書館の最寄りのバス停である生涯学習センターに開館時間内に着くバスは、10時ごろから16時半の間に足柄ルートから3本、須走ルートから3本出ています。そこで、既に毎週土曜日に行われている「おはなしの会」をこのバスの時間に合わせて数回開いてみてはどうでしょうか。また、平成27年度の町民アンケートの結果にて、50%以上という過半数の方々が、「図書館が便利で使いやすいか」という質問に否定的な回答を示していることも含めると、早急に図書館の利便性を高める必要があります。

これらの二つの案を実行することで、小山町の図書館の利便性を高めることができると私達は考えますが、町ではどのようにお考えでしょうか。

以上で質問を終わります。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○教育長（天野文子君） はじめに、移動図書館車を導入する案について、山田議員、市岡議員、村松議員にお答えします。

小山町立図書館では、図書館に向くことが難しい方などのために、役場本庁、足柄支所、須走支所にそれぞれ一般書150冊、児童書150冊の移動図書を設置し、3カ月に1回入れ替えを行い、本の貸し出しを行っているところです。また、町内の小中学校に学校図書館支援員を配置し、子

どもの読書活動の推進に取り組んでもらっています。

子ども達の学校図書館には、各校1万冊以上の蔵書があり、小学校全体では6万3,000冊余、中学校全体では4万2,000冊余の蔵書があります。

また、平成29年度から町立図書館については、蔵書検索のシステムを導入し、インターネットから蔵書の検索ができるようになり、町内外の多くの方に利用していただき、利便性の向上を図っているところです。

更に、各学校間で図書の貸し借りができるよう、現在システムの導入の研究を進めているところであります。

今まで説明してきましたことや、更に御提案のありました移動図書館車の導入も含めて、いつでも誰もが身近に本を置いて読書できる環境づくりに取り組んでいきたいと考えております。自ら学び、自ら考え、判断する力や他人を思いやる心など、生きる力を育成するために家庭や地域、学校、園、図書館が一体となって読書活動を進めております。今後も更なる読書活動推進、図書館の利用促進に努めていきたいと考えております。

そのほかの質問につきましては、教育次長から答弁いたします。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○教育次長兼子ども育成課長（長田忠典君） コミュニティバスの時間に合わせてイベントを実施する案についてお答えいたします。

図書館では、毎週土曜日10時30分から30分程度、図書館ボランティアによる絵本等の読み聞かせ「おはなしの会」を開催しております。「おはなしの会」の開催時間については、駿河小山駅、足柄駅、須走の各方面から生涯学習センター前に着くバスが10時10分前後にあることから、議員御提案のとおり、バス利用者に合わせて開催をしております。

また、乳幼児期から読書週間を身につけ、読書活動の推進を図るため、ブックスタートやセカンドブックによる本のプレゼント、子ども読書の日に合わせてワークショップや読み聞かせ、工作などを行っております。加えて、小学校3年生から6年生を対象とした図書館ファンクラブやビブリオバトルなど、様々なイベントを計画、開催しております。

駿河小山駅、足柄駅、須走の各方面から生涯学習センター前に着くバスについては、毎日各方面から5本以上の運行をしておりますので、町民の方へバス利用の周知を図るとともに、できる限りバスの時間に合わせてイベントを開催するなど、引き続き多くの方に町立図書館を利用し本に触れていただくよう進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（勝又涼菜君） 再質問はありませんか。

○5番（市岡優衣君） 再質問します。

現在、小山町では、人口1万8,821人のうち、1日に約120人が図書館を利用しています。そのうち19歳未満の人口約4,000人のうち、図書館を利用している人数は約36人です。私達はその結果

に対し、19歳未満の利用者数が少ないと感じました。

そこで、小山町では読書通帳を今後行っていく予定だと伺っていますが、具体的にどのように進めていく予定ですか。また、その政策によって19歳未満の図書館の利用者数の増加に影響があるとお考えでしょうか。

以上で再質問を終わります。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○教育次長兼子ども育成課長（長田忠典君） 市岡議員の再質問にお答えいたします。

19歳未満の利用者が少ないことを数で示していただきまして、本当に少ないと感じました。

読書通帳の発行についてですが、読書通帳は、平成27年10月から導入をしております、多くの方に利用されています。

セカンドブックとして小学校1年生を対象に絵本のプレゼントをしていますが、その際にも読書通帳をプレゼントして、皆さんに、町立図書館を多く利用してもらえるように考えております。

以上であります。

○議長（勝又涼菜君） 再々質問はありませんか。

○6番（村松希海君） 再々質問をします。

先ほどの山田虹歩さんの答弁についてですが、移動図書をしているとのことですが、もう少し設置場所をふやしたり、入れ替え回数をふやすことは考えていませんか。また、そのような計画を考えている場合、どこに設置場所を考えているのか具体的に教えてはいただけないでしょうか。

再々質問を終わります。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○教育次長兼子ども育成課長（長田忠典君） 村松議員の再々質問にお答えいたします。

移動図書館につきましては、御提案にありましたとおり、御殿場市で既に導入されているということで、そちらも参考にさせていただきたいと思っておりますけれども、先ほど答弁させていただいたとおり、現在のところは須走、北郷、足柄の各支所に移動図書館がありますので、そちらを多く活用できるような方策をとっていきたいと考えております。

また、子ども達が図書に多く触れるためには、やはり学校の図書館を充実していくことが肝心であると考えております。このことにつきましても各学校で図書館の連携をして、いろいろな本に触れてもらうことも現在考えているところですので御理解いただきたいと思います。

以上であります。

○4番（山田虹歩君） 以上をもちまして、私達の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（勝又涼菜君） 次に、7番 渡邊正人君。

○7番（渡邊正人君） 4人を代表して、経済面での金太郎の活用について質問します。

小山町は、金太郎誕生の地であり、金太郎は小山町だけが持っている唯一無二の武器ですが、

小山町はその長所を活かし切れていないのではないのでしょうか。例えば、パッケージに金太郎のイラストを印刷しているだけの商品が数多くあります。ほかにも金太郎の商品と言えば、和菓子が多く、洋菓子、駄菓子の金太郎商品が少ないと感じます。

小学6年生に小山町に関するアンケートを行ったところ、「小山町の商品について御自由にお書きください」という項目で、「怖い」という回答が少しありました。より購入者の年代層を広げるために、パッケージをもっと改めるべきです。

しかし、そういった提案を行う話し合いの場がないので、この商品はもっとうるパッケージにしてほしいという提案も届きにくいと考えます。そこで、私達学生だけではなく、町民やそして金太郎商品をつくる民間企業も参加する「金太郎グッズ考案会」の開催を提案します。

開催することによる効果として、まず、たくさんの方が参加することによって、様々なアイデアを生み出すことができます。似たような事例として、御殿場では、御殿場納豆のパッケージを市民に募集し、採用されました。今でも小中学校の給食で出されています。

金太郎という大きな武器を最大限活かすことで、小山町は今よりもっと発展するはずで、金太郎グッズ考案会について、町の意見をお伺いします。

以上です。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○町長（込山正秀君） 渡邊議員、勝亦議員、佐藤議員、村上議員にお答えをいたします。

経済面での金太郎の活用についてであります。

本町では、第4次小山町総合計画や観光振興計画、更には、私の政策提言により、町の特産品を活用した商品を開発し交流拠点となっている二つの道の駅において、情報発信及び販売活動を推進することを目標としております。

議員御承知のとおり、本町は金太郎生誕の地であり、町の至るところであらゆる形の金太郎を目にしていることかと存じます。現在、小山町商工会による優良推奨品認定事業や農商工連携協議会による地場産品の6次産業化など、金太郎を活用することで商品の付加価値を高め、販路拡大に努めているところであります。

また、小山高校生や常葉大学、日本大学の学生の皆様にも金太郎を活用した新商品の開発に取り組んでいただいております。

議員御提案の金太郎グッズ考案会については、まさに魅力ある商品と付加価値を高める情報発信の目的にかなう試みでありますので、町を代表する商品開発に向けて、商工会や観光協会などの各種団体をはじめ、民間企業や町民、学生など幅広く参加を募り、考案会の開催について調整してまいりたいと考えております。

その他の詳細につきましては、経済建設部長から答弁をいたします。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○経済建設部長（野木雄次君） 私からは、現在までの具体的取り組み状況と今後の展開について

説明させていただきます。

町では、平成25年度に町制施行100周年を記念して金太郎シンボルデザインを定め、職員によるPRのほか、民間事業者による飲料水のラベルや自家製パンの焼き印など、多くの商品に金太郎を活用していただいているところであります。

また、小山町商工会では、地場産品を活用した商品のブランド力を高めるため、「金太郎からの贈り物」と称して各種イベント等を通じて販路拡大に努めているところであり、これまでに14品目を優良推奨品として認定しております。

一方、昨年度に農商工連携事業として実施した小山新商品開発セミナーでは、小山高校家庭科部の皆さんに餅ロールキャベツや水掛菜春巻き、金太郎トマトチップスを考案していただきましたが、商品コスト等が課題となり、残念ながら商品化には至っておりません。

商品開発に当たりましては、顧客のニーズに応じた商品を提供することが重要であると考えます。したがって、新たな考案会にはマーケティングに詳しい専門的な知識を有する方にも加わっていただき、将来的にはそこから新たな金太郎グッズが生まれることを期待しております。

以上です。

○議長（勝又涼菜君） 再質問はありませんか。

○8番（勝亦紫音君） 再質問をいたします。

小山高校、常葉大学、日本大学の生徒に金太郎を活用した新商品開発に取り組んでもらっているとありましたが、具体的にそこではどのような商品が開発されたのでしょうか。

以上です。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○経済建設部長（野木雄次君） 勝亦議員の再質問にお答えいたします。

先ほどの答弁にもありましたが、小山高校から考案していただきました商品につきましては、餅ロールキャベツ、水掛菜春巻き、それからトマトチップスであります。

ちなみに参考までに、その他に御提案していただきました商品を御紹介申し上げますと、優良推奨品の中には、例えば金太郎勝バーガー、金太郎サブレ、金時せんべい、金太郎の熊どらなどがありますので御紹介申し上げます。

以上であります。

○議長（勝又涼菜君） 再々質問はありませんか。

○9番（佐藤美月君） 答弁において、小山高校の家庭部とのコラボ商品がコスト面で無くなってしまったと聞きました。

私達の提案として、小山高校のマスコットキャラクターである小太郎くんを商品のパッケージ等で利用できたらと思っています。今後、小太郎くんを活用する予定はあるのでしょうか。

以上で再々質問を終わります。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○経済建設部長（野木雄次君） 佐藤議員の再々質問にお答えいたします。

先ほどの答弁にもありましたが、今後考案会を開催していく考えであります。その考案会の中で前向きに具体的に検討して、ぜひ活用を図っていきたいと考えております。

以上であります。

○議長（勝又涼菜君） 再々再質問はありませんか。

○10番（村上真鈴君） 再々再質問をします。

オリンピックで金太郎を活用する予定はありますか。

以上で再々再質問を終わります。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○町長（込山正秀君） 再々再質問でしたか、お答えいたします。

しっかりと金太郎を使いますので、よろしく願いいたします。

○7番（渡邊正人君） 以上をもちまして、私達の一般質問を終わりにします。ありがとうございました。

○議長（勝又涼菜君） 次に、11番 岩元龍之介君。

○11番（岩元龍之介君） 3人を代表して、小山町の高齢者と若者の積極的な交流について質問します。

小山町は高齢者が多いですが、高齢者との交流は少ないように感じます。私達若者と高齢者の皆様の積極的な交流には、「年代が違う方達との情報交換ができる」「高齢者の方々にとって生きがいになる」「私達にとって将来につながる」などのメリットがあると考えます。

現在、小山町に建設されたバーベキュー場の利用者は少なく1,562人です。これは小山町民のわずか12%です。この結果から、まだ活用し切れていないと感じます。

更に、小山町にはふれあい農園が49区画あります。しかし49区画あるうち、平成28年度には31区画、その翌年は28区画、そして今年度は27区画と、もともとの利用率が余り高くない上に、年々少しずつではありますが利用者数が減ってしまっています。

更に、一昨年、私達生徒会が提案しつくっていただいたバーベキュー場は、夏にはたくさん利用されますが、ほかの時期には余り利用されていません。東京や磐田市に存在するバーベキュー場でも同じような状況があり、次のような対策をとったようです。

東京にあるバーベキュー場では、季節によって地域の特産物を提供し、磐田市にあるバーベキュー場では節分などの季節に合ったイベントの開催です。これにより、バーベキュー場の利用する頻度をふやすことに成功しただけでなく、地域の人との交流を深めることにもつながったといえます。

そこで、小山町でもバーベキュー場とふれあい農園と近くにある川を同時に利用した交流イベントを提案します。イベントでは、農園での収穫や川での魚釣り体験、その後には収穫したものを使ってバーベキューを楽しんでもらいます。魚釣りと収穫を子ども達に自ら体験してもらうこ

とによって、自分達がいつも食べる物に直接触れる機会になります。更に、高齢者の方から経験をもとにした様々なことを教えていただくことで、高齢者の交流の機会になり、生きがいにつながります。その後の効果として、バーベキュー場のシーズン以外の利用率の増加、ふれあい農園の認知度を上げることにつながるのではないのでしょうか。

このイベントの中で行われる鮎沢川の魚釣り、農園での収穫、そしてそれを使ったバーベキューは、自然豊かな小山町だからこそできると思います。これらのことについて町ではどうお考えでしょうか。

以上で質問を終わりにします。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○町長（込山正秀君） 岩元議員にお答えをいたします。

高齢者と若者との積極的な交流についてであります。

議員御承知のとおり、足柄ふれあい公園には、パークゴルフ場、ふれあい農園、バーベキューガーデンを含めた公園施設がございます。

この中で、足柄バーベキューガーデンは、平成28年高校生議会で交流の場の創出を目的に提案されたもので、地元足柄地区との協議等を経て、本年4月25日にオープンしました。議員御指摘の年間の利用状況につきましては、開園後半年弱ではありますが、もっと多くの方に利用していただけるよう更なる取り組みが必要な状況であります。

バーベキューガーデンに隣接する足柄ふれあい農園は、畑を使い、初めて作物を栽培する楽しみを体験していただく初心者の方が主な利用者であります。何年か利用した後、面積の大きな畑を別に求め、この農園を卒業なされる方も多く、「栽培の楽しさを体験できた」といった感想などが寄せられております。しかし、利用区画に空きがあることは議員の御指摘のとおりであり、今まで以上に施設のPRや情報提供に努めてまいります。

また、足柄ふれあい公園は、毎年富士山金太郎夏まつりの会場として、町民の皆様大変御好評をいただいているところであり、今後も各種イベントを継続してまいります。

さて、これらの施設を利用した高齢者と若者との積極的な交流の場としての活用であります。施設管理の担当課と福祉、農業、観光等を担当する各課が現在行っております事業も含め、相互に世代間交流を意識した企画を取り入れた事業が実施可能か検討してまいります。

その他の詳細につきましては、住民福祉部長から答弁をいたします。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○住民福祉部長（小野一彦君） 町が設置管理する数多くの公共施設は、各種イベントの開催や交流の場として利用されております。高齢者と若者との交流に限らず、多世代の様々な人々の交流には、小山町のみならず、この地域を現在の世代から次の世代に引き継ぎ、将来にわたり存続させることにつながる多くのメリットがあると考えます。

高齢者人口は、団塊の世代が全員75歳以上に到達する2025年に向け増加し続け、その後も2040

年から2050年ごろまでは、ピークの人数を維持しながら同程度で推移すると言われております。一方、議員の皆様を含む生産年齢世代の人口は減少し、高齢者福祉の担い手に不足を生じることが懸念されています。

そこで町は、高齢者自身が要介護状態にならないように、介護予防事業に取り組むほか、元気な高齢者が介護を必要とする高齢者を支援する仕組みの構築や、現役世代がボランティアとして高齢者福祉の担い手となっていただく取り組みなど、様々な施策を実施しております。

今回御提案を受け、高齢者福祉の立場からバーベキューガーデンの活用について検討いたしました。現在、70歳以上の高齢者に対し、毎年9月の敬老会の案内状とともに、温泉施設やパークゴルフ場などで使用できる2市1町共通無料券を配布しております。町内の施設は2カ所の温泉施設と2カ所のパークゴルフ場と健康福祉会館のリラクゼーションスタジオですが、ここにバーベキューガーデンを追加し、高齢者がバーベキューに親しむ機会を提供することにより、そこを利用する若者などとの交流機会がふえることが期待でき、また、高齢者自身の外出機会の創出にもつながるものと考えます。結果として、利用率の向上及び利用者数の増加により多世代間の交流が深まると考えられます。

また、バーベキューガーデン、ふれあい農園、川を同時に利用した交流イベントは、小山町の豊かな自然環境の中で、高齢者と若者との交流を図る新たなイベントとして、多世代交流の起爆剤の一つとなり得る御提案であります。しかしながら町長答弁のとおり、様々な観点からの検討が必要となりますので、役場内の関係各課はもとより、高齢者の団体であるシニアクラブをはじめ、小山高校など様々な団体の皆様と検討を進めてまいりますので、御理解を願いたいと考えます。

最後に、これは議員の皆様への御提案であります。既に参加しているという方もいらっしゃると思いますが、皆様のお住まいの各地域には、必ず高齢者が参加する行事があると思います。ぜひ若者世代の皆様には地域住民の一員として、また、将来の地域の担い手として地域の行事等に積極的に御参加をいただき、高齢者だけでなく様々な世代の住民の方々と交流をもっていただければ幸いに存じます。地域の様々な行事に参加することにより皆様の交流の場が広がり、地域を知ることができ、地域を思う気持ちが更に深く醸成され、今後の皆様の人生に必ずやプラスになるものと信じております。

以上であります。

○議長（勝又涼菜君） 再質問はありませんか。

○11番（岩元龍之介君） 再質問をします。

バーベキューガーデンの利用券をできるだけ早く配布した方がいいと思いますが、具体的にいつごろをお考えでしょうか。また、高齢者には利用券を配布すると言っていましたが、若者に対しての取り組みはどうお考えでしょうか。

以上で再質問を終わります。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○住民福祉部長（小野一彦君） 岩元議員の再質問にお答えいたします。

2市1町共通無料券の発行時期ですが、現在、担当課においてその内容を再検討しております。

現在、約4,000人程度の70歳以上の高齢者の方に、1人につき6枚ずつ無料券を発行しております。これは町内の温泉施設、それからパークゴルフ場、リラクゼーションスタジオ、それから御殿場市、裾野市の温泉施設も使えるといったものでありますが、残念ながらその利用率は50%前後ということで、全ての方が使っているわけではありません。体の不自由な高齢者の方はなかなかお風呂に入れない、また家庭風呂がなければ行けない、こういった理由でその内容の検討を求められておりますので、現在担当課においてもその内容を吟味しているところであります。

この検討がスムーズに進むならば、発行すること自体は次の敬老会の案内の時期に合わせることも可能ではありますが、予算も絡む話ですので、今ここで来年から直ちに申し上げることとはちょっとできないと考えます。

また、若者世代へのPRということですが、残念ながら高齢者福祉ではその部分に対して直接PRをするという立場ではございませんが、高齢者の2市1町共通無料券は同居の家族であれば誰でも使うことができます。例えばおじいさん、おばあさんがその券を持っていれば若者世代が使うこともできますので、ぜひそういったこともPRしながら内容を考えていきたいと思っております。

以上であります。

○議長（勝又涼菜君） 再々質問はありませんか。

○11番（岩元龍之介君） 以上で、私達の一般質問を終わりにします。ありがとうございました。

○議長（勝又涼菜君） 次に、14番 廣戸蓮大君。

○14番（廣戸蓮大君） 4人を代表して、小山町の防災行事について質問します。

近年では、第4次小山町総合計画の防災ページからも分かるように、地域防災訓練参加者数が小山町の人口3分の1しかおらず、住民一人一人の防災に対する意識の向上が必要になっていることが分かります。特に20代から40代の親世代の参加率が低下しているのではないかと考えました。

そこで、私達は小山町防災行事を提案します。この防災行事は、親子での参加率の増加を目的に、訓練の後に家族で楽しめるイベントを実施するものです。例えば、三島市では、防災訓練後に流しそうめんを開催しているそうです。実際にこのイベントを行うことによって参加率が上がっています。このような例があるように、小山町でも親子で楽しめるイベントを開催してはいかがでしょうか。

具体的には、小山町のマスコットキャラクターの金太郎をモチーフにした防災グッズをつくる体験や、家族参加型のクイズ大会です。このように、防災×小山町をテーマに様々なイベントを開催することによって、たくさんの人が防災訓練に参加し、自助、共助、公助を意識するきっかけになればいいと思います。また、防災訓練内では、新たに小山町にある食用草を使ったレシピ

の紹介など、親子で知識を深められる項目をつくってみてはいかがでしょうか。

これらのことについて、町ではどのようなお考えでしょうか。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○町長（込山正秀君） 廣戸議員、加瀬議員、増田議員、常盤議員にお答えをいたします。

小山町の防災行事についてであります。

静岡県では、12月の第1日曜日を「地域防災の日」と定め、県内の自主防災組織を中心に地域防災訓練を実施しております。この地域防災訓練は、地域の特性に応じた防災体制の確立と県民の防災意識の高揚による減災を目的に、自主防災組織を主体とした避難訓練を実施するもので、回を重ね今年度で36回目を迎えます。小山町には40の自主防災会があり、毎年、震度6強の地震により、町内全域で火災や家屋の倒壊、崖崩れ等の甚大な被害が発生し、多数の負傷者が出たことを想定した地域防災訓練を実施しております。

小山町の地域防災訓練参加者数は、議員御指摘のとおりであります。昨年度の小山町の人口に占める参加割合は37.2%で、県内6位、県東部の10市4町の中では1位となっており、他市町との比較では多くの皆様に御参加をいただいている状況であります。参考までに、静岡県の平均参加割合は20.4%となっております。

なお、第4次小山町総合計画の後期基本計画においては、地域防災訓練参加者数を、平成27年度の現状値6,900人を平成31年度には7,300人まで引き上げることを目標に掲げております。この目標を達成するためにも、御提案いただいた内容について活用できるものは取り入れていきたいと考えております。

具体的な取り組みに関しましては、危機管理監から答弁をいたします。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○危機管理監兼防災課長（岩田和夫君） 私ごとで大変恐縮なんです。小山町高校生議会デビュー戦でございますので、議員の皆様におかれましては何とぞお手柔らかな対応をお願い申し上げます。回答させていただきます。

地域防災訓練は、町内40の自主防災会が主体となって訓練の企画や運営を行っています。町内の自主防災会は、地域防災訓練の参加率の向上を目指して様々な工夫を凝らした訓練を実施していると伺っております。

ある自主防災会では、班長さんが安否確認訓練で自分の班の各御家庭を回り、訓練の参加を呼びかけたり、ある自主防災会では、班ごとに事前に訓練参加率を出して班ごとの競争を促したりといった取り組みがなされています。

町といたしましても、防災訓練参加者数を更に増加させるため、避難所単位での合同防災訓練、通称「スーパー防災訓練」の実施を支援しています。このスーパー防災訓練には、自衛隊、警察、御殿場健康福祉センター、小山消防署、小山町消防団等の御協力をいただいています。

具体的な訓練内容といたしましては、一つ目に、避難所体験及び防災資機材の組み立て、二つ

目に、炊き出し訓練、三つ目といたしまして、煙ハウス体験、消火訓練、四つ目に、地震体験車による震度体験訓練等を実施しています。

また、このスーパー防災訓練の特徴は、多世代参加型の訓練となっているところでございます。

議員御提案の家族参加型の防災クイズを行っているほか、地域でとれたニンジン、ダイコン、サトイモ等の食材を使用した豚汁なども炊き出し食として出されています。

今回の御提案も参考にさせていただき、今後も引き続き多世代が参加できる地域防災訓練となるよう鋭意工夫してまいります。

以上でございます。

○議長（勝又涼菜君） 再質問はありませんか。

○15番（加瀬心結君） 再質問をします。

先ほど、スーパー防災訓練の中で、炊き出しやクイズなど具体的な対策を行っていることは分かりましたが、防災グッズについてはいかがお考えでしょうか。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○危機管理監兼防災課長（岩田和夫君） 加瀬議員の再質問にお答えします。

防災グッズについて正直に申し上げますと、現在防災グッズに対応した取り組みはございません。加瀬議員御指摘の内容を危機管理監としてよく拳々服膺して、今後対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（勝又涼菜君） 再々質問はありませんか。

○15番（加瀬心結君） 再々質問をします。

具体的な例として私達が今考えていたのは、一番最初の質問にもあったように、金太郎と小太郎くんのコラボという話が出たので、そのコラボをした防災グッズなどをつくってみてはいかがでしょうか。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○危機管理監兼防災課長（岩田和夫君） 加瀬議員の再々質問にお答えします。

傍聴席にも金太郎と小太郎くんがお見えになっておりますので、これだけの熱意を直接ぶつけられますと対応せざるを得ないと思ひますので、提案が実を結ぶように鋭意検討してまいりたいと思ひます。

以上でございます。

○議長（勝又涼菜君） 再々再質問はありますか。

○14番（廣戸蓮大君） 少し話が代わりますが、災害が発生した際、頼りにされるのは中学生、高校生などの学生と言われます。しかし、それぞれでの避難訓練は行っているものの、災害発生後の私達学生の動きについては何も訓練していない上、どう動くべきなのかという知識もありません。起きた直後の訓練だけでなく、災害後の訓練知識も必要だと感じるのですが、町ではどうお考えでしょうか。

○議長（勝又涼菜君） 答弁を求めます。

○危機管理監兼防災課長（岩田和夫君） 廣戸議員にお答えします。

残念ながら私の最初のお願いが通じなかったようで、かなり高度な質問で、正直まいており  
ます。

御指摘のとおり、いろんな世代の訓練というのが、実はまだ行われておりません。地域での訓  
練を中心に行っているところがございますので、今後は廣戸議員が言われたように、各世代、小  
学校、中学校、高校、そういった生活が異なる人達の訓練も実際に必要になってくると思いま  
すので、今すぐというわけにはいきませんが、訓練を見直して対応していきたいと考えておりま  
す。

以上です。

○14番（廣戸蓮大君） 以上をもちまして、私達の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（勝又涼菜君） これで一般質問を終わります。

ここで、議長の私から、皆さんへ一言御挨拶を申し上げます。

皆さん、熱い討論をありがとうございました。平成28年の6月に選挙権年齢が18歳に下げられ  
たこともあり、次世代を担うのは私達高校生だと言われていています。そのため、そのような私達が  
自分の住んでいる町やお世話になっている町の取り組みについて真剣に考え、このように発言で  
きる場を設けていただいたことは、大変ありがたいことであると思います。また、高校生が政治  
について考えるよいきっかけになったと思います。小山町高校生議会を開いてくださりありが  
うございました。

私達は、小山町よりよくするため、一般質問を考えさせていただきました。そのため本日行っ  
た質問や提案が今後の役に立つことがあれば幸いです。私達は今回の経験を活かし、次世代を担  
うリーダーとして成長していきたいと思えます。

本日は大変ありがとうございました。

以上で、本日の日程は全部終了しました。

これもちまして、平成30年小山町高校生議会を閉会します。

午後3時27分 閉会

○議会事務局長（岩田芳和君） 起立願います。お疲れさまでした。着席願います。

○総務課長（大庭和広君） それでは、皆さん、大変お疲れさまでした。

最後に講評を、3人の方をお願いしたいと思います。

はじめに、込山町長からお願いいたします。

○町長（込山正秀君） 今年の8月からですか、準備されて、本当にしっかりとした質問が今日で  
きたかと思えます。小山町の議会の質問と比べて、何ていいでしょうか、同じというと議員に怒  
られてしまっていますが、これから議員になっても十分務まるような質問をしていただきました。本

当にありがとうございました。

最初の情報発信についてですが、私もこの歳でございまして、余りこれについては詳しくはございませんが、先ほど部長が御説明したとおり、インスタグラムですか、これをやろうということで今、動きが出てまいりました。これについてはフォロワーというんですか、たくさんフォロワーを持っている方を、小山町のどういう形か、名称はこれから決めますが、指名させていただいてその方に小山町に来ていただいて、小山町を発信していただくということを今、検討していると聞いておりますので、これが実現すれば、全国から世界まで、小山町の情報が瞬時に広がるのかなと、期待しているところであります。

また、このアンケート調査ですね、これは本当にびっくりしました。これについてはまた、町の方でもその結果を、もう少し詳しいものをお借りして参考にして、対処していきたいなど、こんな思いがいたしました。ありがとうございました。

それから、3番目であります。金太郎の活用、これについては、金太郎グッズの考案会、これは早速、答弁のとおり、やる形を取らせていただいて、また皆さん方の智慧もお借りして、しっかりとこれを商品化していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

次に、4番目ですね。高齢者との積極的な交流ですが、特に足柄のバーベキューセンターですね。先ほども申したとおり4月に、皆さん方の議会からの質問に応じて、遅くなりましたけど何とかつくりました。これにつきましては、出発したばかりで、どういう形か、方向がまだ見えない中でいろいろやって、これをやるには町の条例を決めて、いろいろ規則がございまして、今の中で私がちょっと思うに、予約制なんですよね。3日前か何か予約しなかったら受け付けないということで、大体ああいうところに来る人はその場でやりたいと、そういう雰囲気を利用していただく方が多いかなと思っておりますが、その辺がこれから検討する余地があると、そんな思いをしておりますし、また、高齢者との交流ですね。これもしっかりと交流ができるような形で企画もつくってやっていくことが必要かなと、今お話を伺って感じました。これらのことも取り組んでいきたいと思っております。

最後に、防災行事について危機管理監からもお話があったとおり、スーパー防災訓練、これは3回ほど行いました。成美地区、明倫地区、そして去年は須走地区で、あと北郷地区と足柄地区が残っておりますが、これも順次やっていこうということで、終わればまた順次回っていこうということなんです。これには小山町のまちづくり推進協議会の方も協力していただいて、地区を上げてやっております。今日のいろいろな御提案も取り入れて、これからも進めていくことになろうかと思っております。

以上でございますが、本当に今日の質問は、次世代を担う皆さん方からすばらしい意見を拝聴いたしましたので、町としても早速これについては実行し、小山町が元気になるように、これからは頑張っていきたいと思っておりますので、皆さんも御協力のほど、よろしくお願ひいたします。

今日はどうもありがとうございました。

○総務課長（大庭和広君） 町長ありがとうございました。

続きまして、米山千晴議会議長、お願いいたします。

○議長（米山千晴君） 議員の皆さん、今日はお疲れさまでした。皆様方の真剣な御質問、全てを、我々が議員1期目に上がったときのような新鮮な気持ちで聞いておりました。皆様方の若い意見、これを我々が取り入れて、10年後、20年後の小山町をつくっていくべきなのではないのかなど、改めて認識させていただきました。

皆様方が数カ月かけて調べてくれたことに感謝いたします。また、当局の皆様方が真摯に受け答えしていただいたことについても感謝申し上げます。

皆様方が将来お母さんになり、お父さんになったときに、自分達の子も達がどうあるべきか、そういうことも考えながら、我々は次の世代に向かって何をすべきか、再認識をさせていただきました。今日のこの教訓をぜひ活かして、今後の皆様方の一助になればなど、このように思っております。

いずれにいたしましても、皆様方の今後の御活躍を御期待申し上げます。今日はどうもありがとうございました。

○総務課長（大庭和広君） 議長、ありがとうございました。それでは最後に、小山高等学校、小川校長、よろしくお願いいたします。

○小山高等学校校長（小川圭一君） 議員の皆さん、お疲れさまでした。本物の議場でみんな堂々と質問し、再々再質問まで出るほど熱心に質問をしてくれました。私などはこんな本物の議場で議員なんてやったことないですから、みんなの方が先輩です。ですから、講評なんておこがましいものですから、雑感ではないですけれども、感想を申し述べさせていただきます。

物事を進めるに当たって、一つの一般的なやり方ですけれども、過程があるじゃないですか。まず現状を知ると、現実をしっかりと把握する。そして目標を定める、ゴールを定める。その目標、あるいは理想とするゴールと、現実との間に差があれば、それが課題になる。その課題の解消のため、現実と理想のギャップを埋めるために、施策を講じる。様々な取り組みを行うという流れがあると思う。その流れのために、やはり何といたっても現状把握、現状に対してしっかりと認識することがすごく大切かなと思います。

今日のみんなの質問、その現状把握がすばらしかったと思います。先ほどもお話がありましたけれども、アンケートですね、このアンケートにつきましては、教育委員会さん、あるいは小中学校の先生方、お世話になりました。この場をかりて御礼申し上げます。

それから、他の自治体の状況を調べて、御殿場市であったり、三島市などの状況と比べてどうかといったところ、そして小山町の詳しいデータ、そこもしっかりと調べて、しっかりとした根拠を持って、今小山町はこういう状況だということで課題を見出したところが、本当にすばらしかったと思います。

そして、今日、平和のつどいが金太郎ホールでありまして、私も参加させてもらったんですけ

れども、君達の後輩に当たるのかな、小山町内の中学校の3年生6人が立派な発表をしてくれた。広島に行って、その広島状況を発表してくれたんだけど、やっぱり現場に行って、そこで実際に目で見、耳で聞き、そして肌で感じる、そのことが説得力のある、非常に感動的な発表につながったのかなと思います。

小山高校は小山町と様々なところで連携をさせてもらって、今、一部活動一交流ということで、いろいろなイベントとかで活動させてもらっています。そういうところの機会を利用して、町の方と交流して、町の状況をよく目で見、耳で聞き、肌で感じて、よりよい小山町というか、地元の社会をつくるように、これから考えていってほしいと思います。それがまず1つ。

もう一つ言いたいことがあるんですけど、先ほど18歳から選挙権の年齢がということになりました。それが高校生議会が開催された一つのきっかけになったということですけど、今、学校の中ではもう一つ、18歳にまつわることで考えなければいけないことは、成人年齢が18歳になると、それが2022年から、4年後になります。4年後ということは、今の1年生は20歳になる前に成人になると思います。15歳の人が19歳でもう成人になるということになるんですね。成人になるということは、責任ある自立した人間として、自主的に主体的に生きていくということだと思う。その自立した人間として主体的に生きるという点からしても、まず世の中のことを知ること、そしてそれをどうやって暮らしやすい、生きやすい社会にしていくのかということ、一人一人が考えていくこと、これがすごく大切かなと思う。今回君達はこの高校生議会で、まず小山町のことをいろいろ調べて、いろいろな提案をしてくれました。この経験をこれから君達がこの後、主体性のある社会人として生きていく上での糧に、ぜひしていってほしいなと思います。

本当にいい経験をさせてもらったと思います。

結びになりますけれども、このように生徒にすばらしい経験をさせていただきました議会の皆様、そして小山町当局の皆様に、改めて御礼申し上げまして講評と代えさせていただきます。本当にありがとうございました。

○総務課長（大庭和広君）　ありがとうございました。

以上をもちまして、高校生議会は終了となります。

午後3時41分　終了